



JAPANESE DESPATCHES

THIRD YEAR COURSE

VOL. ONE

H.M. EMBASSY

TOKYO

Dec. 1930

特別
カ5
6005
5



5
75
6005
5



第一

以書翰致啓上候陳者帝國諸官廳商人名簿中へ貴國「モス、エンド、ガムブル」商會加名方ノ儀ニ關シテハ客年十二月十九日付送第一二九號ヲ以テ御回答申進置候次第有之候處今回農商務省ヨリ同省所管各部内ニ於テハ目下該商會營業品ノ需用無之候得共將來入用ノ節ハ同商會ヨリ購入スル場合モ可有之ニ付同商會ノ名義ハ之ヲ記録ニ留置候旨又海軍省ヨリハ競争入札ニ關シテハ一般ニ内外

This volume is the property of H.M.Embassy Tokyo, and should be returned to the Japanese Chancery when done with.

It is requested that the text should not be marked in any way.

人ノ區別ナク如何ナル外國人又ハ商會
ニテモ其入札ニ參加スルコトヲ得ヘク
尚同省ニハ特ニ商人名簿ナルモノ設
置ハ無之モ同商會ニ對シテハ本大臣ヨ
リノ照會書寫ヲ添ヘ各契約擔任廳ヘ通
牒致置候旨夫々回報有之候間右様御承
知相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ
閣下ニ向テ表敬意候敬具

明治四十四年三月三日

外務大臣伯爵小村壽太郎

大不列顛特命全權大使

サトウロド、マックスウエル、マクドナルド閣下

大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...
 大不... 願... 命... 全... 對... 大... 對... 小... 對... 大... 對...

第二

以書翰致啓上候陳者去ル明治三十八年
 四月閣下ヨリ日英逃亡犯罪人引渡條約
 案御提出相成候ニ付帝國政府ニ於テハ
 直ニ該案ノ攻究ニ着手致候處本案ニ直
 接ノ關係ヲ有スル帝國刑事法規改正案
 ハ當時帝國議會ニ於ケル宿題ト為リ容
 易ニ決定ヲ見ルニ至ラサリシ為不得已
 本條約對案ノ調製ハ暫ク之ヲ見合スコ
 トニ相成候然ル處右改正ノ件モ其後完
 結致候ニ付爾來本條約案ニ慎重ナル審

議ヲ加へ今般別紙對案及宣言書案ヲ調
製致候間同案十部茲ニ御送付申進候本
案ハ帝國ノ法制ト實際ノ便宜トニ顧ミ
貴國政府原案ニ對シ若干ノ修正ヲ加へ
タルモノニ有之候ニ付結局貴國政府ノ
御同意ヲ得ルニ至ラムコトハ本大臣ノ
切ニ希望スル所ニ有之候將又本條約ヲ
支那ニ於ケル貴我兩國ノ租借地ニモ適
用スルコトハ双方ノ為メ望マシキ義ト
存候ニ付日英通商航海條約ノ例ニヨリ

其ノ趣外交文書ノ交換ヲ以テ取極候様
致度依テ同文書案モ併セテ茲ニ差進候
此段申進旁本大臣ハ閣下ニ對シ重テ茲
ニ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十五年五月廿七日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サトウロード、マツクスウェル、マクドナルド閣下

帝國外務大臣ハ爆發物貯藏ノ便宜取計
 方ニ付キ本月十日附英國大使閣下ノ覺
 書ヲ接受シ之ヲ主務官廳ニ照會シタル
 ニ火藥類ノ輸入ニ付テハ神奈川大阪及
 長崎ノ各爆發物貯庫ニ收容ノ餘裕アル
 トキハ何時ニテモ貯藏ノ申出ニ應スヘ
 キモ其餘裕ナキトキハ火藥商自ラ貯藏
 ノ方法ヲ講スルヨリ外途ナキハ前來屢
 ヲ照覆セシ通りニ有之又舩船ニ多量ノ

第三

覺書

帝國外務大臣ハ爆發物貯藏ノ便宜取計
 方ニ付キ本月十日附英國大使閣下ノ覺
 書ヲ接受シ之ヲ主務官廳ニ照會シタル
 ニ火藥類ノ輸入ニ付テハ神奈川大阪及
 長崎ノ各爆發物貯庫ニ收容ノ餘裕アル
 トキハ何時ニテモ貯藏ノ申出ニ應スヘ
 キモ其餘裕ナキトキハ火藥商自ラ貯藏
 ノ方法ヲ講スルヨリ外途ナキハ前來屢
 ヲ照覆セシ通りニ有之又舩船ニ多量ノ

火藥類ヲ搭載シ碇泊スルハ人命ニ危険
ヲ及シタル實例ニ有之乍遺憾認許難致
尚火藥商ニシテ一旦輸入シタル火藥類
ヲ何等處分セズ徒ニ貯庫ニ蓄積シ乍ラ
更ニ輸入ヲ重ヌルニ於テハ遂ニ貯藏ノ
餘地ナキ不幸ニ逢遇スルハ已ムヲ得サ
ルニ付キ輸入者ニ於テ相當ノ注意ヲ取
ルノ外ナキ旨同官廳ノ回答ニ接セルニ
付茲ニ之ヲ英國大使閣下ニ轉牒スルノ
光榮ヲ有ス

明治四十四年四月十七日

以
維
我
水
海
事
其
大
以

五號ヲ以テ御照會相成致敬承候右ハ海
軍省へ及移牒置候處今般同省ヨリ水先
信號ハ我海軍ニ於テモ萬國船舶信號所
所定ノ信號以外ニ規定スル所無之去リ
ナカラ黃金山信號所ニ於テハ大生號ノ
信號ヲ以テ何等カノ要求(假令ハ水先
要招等)ヲ爲セルモノナリト認メテ
スランプニ依リ具企圖ヲ確メントシタ
ルモ應信ナキヲ以テ一汽艇ヲ派遣シタ
ルモ之ニ對シ大生號ハ何等交信ノ手段

ニ出テサリシ云々尚火箭ノ發揚ヲ救難
信號以外ニ使用スルヲ避ケ度御希望ハ
敬意ヲ以テ迎フル處ナルモ之ヲ絶体ニ
救難以外ノ目的ニ對シ禁スルコトハ我
海軍ニ於テ即諾シ能ハサル所云々ノ回
答有之候ニ付右御了承ノ上可然御取計
相成度此段回答旁々本大臣ハ閣下ニ向
ヒ茲ニ重ネテ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十四年九月二十一日

臨時外務大臣伯爵林 董

大不列顛特命全權大使

サトウチヒロト マクスウエル マクドナルド閣下

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "閣下" and "閣下" visible in the right margin.)

第五

以書翰致啓上候陳者今因横濱市ニ於テ
同地公園内ニ紀念公會堂ヲ建設スルノ
計畫アル由ナル處右ハ帝國政府カ曩ニ
國際協定ニ依リテ該公園ヲ設備セル當
初ノ目的ト相容レサルモ圖ト認メラル
ル趣ヲ以テ前顯計畫ヲ廢棄セシメムカ
爲本大臣ヨリ横濱市ニ注意ヲ喚起スル
様本月十六日附貴翰御申出之次第致諒
悉候查スルニ右公會堂建設ノ計畫ハ純
然タル地方問題ニ屬スル儀ト存候處貴

翰ニ依ルニ本件ニ關シテハ横濱ニ於テ
 地方官憲ト貴國總領事館トノ間ニ未タ
 何等公然ノ交渉ナカリシモノト被察候
 ニ付順序トシテ先ツ横濱駐在貴國總領
 事代理ヨリ神奈川縣知事ニ照會セラレ
 以テ本件ノ地方的解決ヲ圖ルコトト致
 度就テハ本大臣ハ今回御來示ノ趣旨ヲ
 神奈川縣知事ニ移牒スルヲ辭セサルト
 共ニ閣下ニ於テ當該貴國領事官ニ對シ
 同知事ニ直接開談方御訓示相成候様致

特製10喜多川紙店

希望候此段回答旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ
 向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十四年十一月二十二日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サトクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

尚事者雙方任意ニ契約ニ依ル儀ニ有之
 本邦ニ到着シテ其ノ居留期間満了後
 事態ニ關シテハ應儀契約ニ於テ特別ノ

第六

以書翰致啓上候陳者貴國ニ於テ帝國臣民ノ購入シタル「スチム、ツロ」ラレニ
衆組ニ帝國ニ渡來スル貴國臣民ノ歸還費用等ノ儀ニ關シ本月七日附第一〇二號貴翰ヲ以テ御申越、次第致敬承候右ハ我方ニ於テモ十分ノ同情ヲ表スルハ無論ノ義ニ有之候得共元來此ノ關係ハ當事者雙方任意ノ契約ニ依ル儀ニ有之本邦ニ到着ノ上其ノ雇傭期間満了後ノ事態ニ關シテハ雇傭契約ニ於テ特別ノ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including dates like 十月二十日 and 十一月十日）

定、ヲ為シタルニアラサル限リハ當人以外ニ於テ如何トモ致方無之現ニ帝國臣民ニシテ外國船ニ雇傭セラレ契約ノ結果歐洲ノ諸港ニ於テ解傭セラレ困難民トナリテ所在帝國領事ノ救濟ヲ願出ル者少カラス候ハ共前述ノ通り他ニ求訴スヘキ途無之儀ニ付其都度帝國領事ニ於テ可然處理致居ル次第ニ有之候右ノ事情ニ付貴我臣民ノ困難ヲ見テ相互ノ官民カ相當ノ好意ヲ示スヘキハ勿論

ノ儀ニ有之候得共大体ニ於テ本件ノ如キハ雇傭當時ノ契約ニ於テ當事者自ラ必要ノ取極ヲ逸セサルコトヲ勉ムルト當局ニ於テ各自ノ臣民ニ對シ相當ノ注意ヲ與フルノ外乍遺憾何等致方ヲ見出シ申サス只ク此外ニハ雇傭契約公認ノ際相互ニ當該領事等ニ於テ當事者ニ對シ好意的ニ一應ノ注意ヲ與フルヲ得ル位ニ止マリ可申筋ト被考候条右様御了知相成度此段拜答旁本大臣ハ茲ニ重テ

閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十四年十月十四日

外務大臣伯爵林 董

大不列顛特命全權大使

サトクロード・マックスウエル・クラドナルド閣下

Handwritten text in cursive script, likely a translation or a copy of the letter's content.

第七

以書翰致啓上候陳者在上海「ゼネラル」ホ
スピタルへ日本赤十字社着護婦派遣方
ノ件ニ関シ本年四月二十五日付第三七
號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣ニ関シテハ客
月一日付送第四二號ヲ以テ一應申進置
候通日本赤十字社へ及協議置候處今般
同社ヨリノ回答ニ依レハ本件着護婦ノ派
遣ヲ求メラレタルハ同社ノ名譽ニ有之
旁々折角ノ御申越ニ付可成御希望ニ應
シタキ考ナルモ同社ニ於テハ救護員任

用規則第二十一條ヲ以テ救護員海外(滿洲委員部管内ヲ除ク)ニ旅行シ又ハ住所變更ノ届出ヲ怠リテ住所不明トナリタルトキハ其ノ期間ヲ誓約年限ニ算入セサル旨ヲ規定シ尚ホ誓約年限中ノ救護員ニ對シテハ同規則第二十四條ヲ以テ戰時事變ニ際シ召集スルノ外天災事變其ノ他演習講習點呼ノ時亦之ヲ召集スル旨ヲ規定致居候ニ付該着護婦等カレセホラルホスビタル勤務中ノ期間ヲ同社

ニ對スル義務年限中ニ算入ノ儀ハ規則上甚タ困難ニシテ若シ其ノ途ヲ開クニ於テハ獨リ彼等着護婦ノミナラス目下清國ニ滞在スル多數ノ救護員一般ニ對シテモ同様ノ取扱ヲ要スルハ勿論ニシテ支障不尠候ニ付甚タ遺憾ナカラ御希望ニ應シ兼候趣ニ有之候間右之事情御了承ノ上在上海ニセネラルホスビタル理事ハ可然御傳達相成候様致度此段拜答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ

表シ候敬具

明治四十五年六月八日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サトクロード・マウクスウエル・マクドナルド閣下

Faint handwritten text in the background of the right page.

第八

以書翰致啓上候陳者帝國沿海各地府縣
知事ノ外國軍艦訪問ノ際禮砲謝絶ノ件
曩ニ各國代表者ニ通牒致置候處右ニ關
聯シテ府縣知事及外國軍艦間ノ訪問方
ニ關シ疑問ヲ生シタル趣ヲ以テ外國代
表者中ヨリ問答ノ次第有之ニ對シ帝
國府縣知事ハ左ノ通心得居候旨回答致
置候間右様御承知ノ上其向一御轉致方
可然御取計相成度候

一 外國ノ海軍指揮官府縣廳ノ在ル港

湾ニ入港シタルトキ其府縣知事ハ
事情差支ナキ限り該指揮官ト訪問
ノ交換ヲ行フヲ例トス其法來港ノ
外國指揮官已ヨリ上級ノ官等ナル
トキハ最初ニ府縣知事ヨリ訪問ヲ
行ヒ同官等又ハ同官等以下ノ指揮
官ノ訪問ニ對シテハ回訪ヲ行フヲ
例トス但艦長以下ニ對シテハ代理
官ヲ遣ハスコトアリ

二府縣知事在任セサル場合ニハ訪問

交換ヲ略スルヲ例トス

尚府縣知事ニハ海軍中將又ハ海軍少將
ニ相當スル兩官等有之候ニ付來港ノ貴
國海軍指揮官ハ其地駐在貴國領事官ニ
就キ其官等ヲ承知セラルル様致度候此
段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ
敬意ヲ表シ候敬具

明治四十四年七月三日

外務大臣侯爵小村壽太郎

大不列顛臨時代理大使

ホレーズ、ラムボルド貴下

大不列顛臨時代理大使
ホレーズ、ラムボルド貴下
御手紙
英兩國間通商條
約改締ノ期ニ近ツケル際ナリシヲ以テ

第九

以書翰致啓上候陳者原產地證明ニ對ス
ル領事官手数料相互免除ノ件ニ関シ貴
我兩國政府間ニ於テ曩ニ帝國政府ト露
國政府トノ間ニ為シタル取極ト同一ノ
目的ヲ達センガ為メ外交文書ノ交換ヲ
以テ英佛兩國間ニ於ケル現存取極ト同
様ノ取極ヲ為シ度旨明治四十三年五月
二十一日附貴翰ヲ以テ御提議相成致敬
承候然ルニ當時恰モ日英兩國間通商條
約改締ノ期ニ近ツケル際ナリシヲ以テ

一先ツ右ニ對スル處決ヲ留保シ尔後其儘ニ相成居タル次第ニ有之候處右ニ關シテハ帝國政府ニ於テモ本件領事官手數料相互免除ノ日英兩國間通商ノ增進ニ資スヘキヲ察シ此際外交文書ノ交換ニ依リ貴我兩國政府間ニ相互免除ノ取極ヲ爲スニ異議無之候間右様御承知相成度候尤モ貴翰ニ引用セラレタル英佛兩國間ノ取極中ニ在ル締約國一方ノ稅關及其他ノ地方官公署ニ發給シタル原

特製10喜多川紙店

產地証明書ニ對スル他ノ一方ノ領事官ノ查證ニ關スル件ニ就キ從來帝國政府ノ取扱ハ斯ル証明書ニ對シテハ別ニ我領事官ノ查證ヲ要セスシテ其有効ヲ認メ居ル次第ニ有之候間此莫ニ關シテハ右英佛兩國間ノ取極ニ多少ノ變更ヲ加フルノ要有之候尚ホ為御參考四十二年一月十五日官報彙報欄内ニ掲載ノ前頭日露兩國間ニ交換シタル文書御閱覽ノ上可然御取計相成度此段回答旁本大臣

ハ茲ニ閣下ニ向テ車ヲ敬意ヲ表シ候敬
具

明治四十五年六月三十日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サリ、クロード・ゴックスウエル、マクドナルド閣下

御覽ニ付、閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬
具

第十

以書翰致啓上候陳者先般内務省ニ於テ
發布相成候銃砲火藥類取締法施行規則
ニ關シ貴國當業者ノ蒙ルヘキ不便ヲ列
舉シ同規則修正ノ御希望ヲ開陳相成タ
ル去月三十日貴翰第二十九號正ニ拜承
致候然ル處本件ニ關シ從來貴大使ヨリ
屢次ノ御申越ハ其都度之ヲ主務官廳ニ
移牒致置候得共是レ畢竟主務官廳ニ於
ケル執務上ノ參考資料ニ供シタル迄ニ
シテ其如何ナル程度ニ於テ採擇セラル

ルヤハ豫期、限ニ無之ハ貴大使ニ於テ
モ夙ニ御了知ノ次第ト存候蓋シ當局者
ニ於テ一般法規ヲ制定スルニ當リテハ
專テ公共、利害得失ヲ標準ト致スコト
必要ニ有之各個人ノ便宜損益ヲノミ考
量致兼候ハ當然ノ義ニシテ今回ノ新規
則ニ於テ貴國商人ノ申條ヲ採用致兼候
默有之候モ是亦不得止義ニ有之而シテ
帝國政府カ該規則ヲ制定スルニ當リテ
ハ内國人タルト外國人タルトヲ問ハス

關係當事者ニ諮ラズ專ラ上陳ノ見地ニ
依リ決定ヲ為シタル次第ニシテ此カ爲
メ貴國關係會社側ノ意見ヲ發表スル機
會ヲ與ヘザリシ云々ノ御申出ハ本大臣
ノ意外トスル所ニ有之候殊ニ本件ノ如
ク純然タル國內警察行政ノ範圍ニ屬ス
ル事項ニシテ主務官廳ニ於テ充分ノ詮
考ヲ盡シタルモノニ對シ其ノ施行後ノ
實績如何ヲ驗セスシテ之カ修補改正ヲ
行フカ如キハ帝國政府ニ於テ何等其ノ

理由ヲ認メ能ハカル所ニ有之候間右様
御承知相成度右拜答旁茲ニ本大臣ハ重
不テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十四年四月十五日

外務大臣伯爵小村壽太郎

大不列顛特命全權大使

サトウクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第十一

以書翰致啓上候陳者曰韓國併合ノ結果
朝鮮各國居留地ニ関スル曰韓國ト各國
トノ間、取極ハ消滅ニ歸シタル義ニ有
之候ハトモ帝國政府ニ於テハ併合ノ際
一時ノ便宜上當分ノ内右居留地状態ノ
存續ヲ認メ現ニ明治四十三年（一九一〇
年）八月二十九日制令第二號ヲ以テ右各
國居留地ニ於ケル行政ハ警察ニ関スル
事項ヲ除クノ外當分ノ内從前ノ例ニ依
ル旨ヲ規定シ而シテ之カ整理ニ関シテ

ハ追テ關係諸國ト協議ヲ開始スルコト
 致シタル次第ニ有之候然ルニ併合後
 各般行政上ノ整理ニ著カ其ノ歩ヲ進メ
 地方制度ノ整理モ近々完了スル見込ナ
 ルヲ以テ帝國政府ニ於テハ今ヤ右各國
 居留地ノ整理ヲ爲ス時機到來セルモノ
 ト認メ候
 右居留地ノ整理ハ在朝鮮各國居留地即
 仁川、鎮南浦、群山、木浦、馬山浦及城津ニ於
 ケル各國居留地ノ行政機關ニ於テ從來

施行セシ事務ヲ朝鮮當該地方行政機關
 ニ引継クコト茲ニ居留地財産ヲ處分スル
 コト等之ニ關聯スル問題ハ何レモ主ト
 シテ地方的ノ性質ヲ有スルモノニ有之
 候

仍テ帝國政府ニ於テハ右居留地整理ニ
 關スル協議ヲ關係諸國政府ト開始スル
 ニ當リ問題カ前記ノ如ク主トシテ地方
 的ナルニ鑑ミ先以テ朝鮮ニ於テ下協議
 ヲ行フコト便宜ナリト認メ候間帝國政

府、朝鮮總督府ニ適當ノ訓令ヲ發スヘ
キニ付貴國政府ニ於テモ在京城貴國領
事官ヲシテ他關係國領事官ト共同シ朝
鮮總督府當該官ト本件ニ關スル下協議
ヲ爲シ且一ノ整理案ヲ協定セシムル様
必要ナル訓令ヲ成ルヘク速ニ該領事官
ニ發セラレムコトヲ致冀望候
前記下協議ノ會議ニ於テ整理案協定セ
ラレタルトキハ之ヲ基礎トシテ帝國政
府ト關係國政府間ニ商議ヲ盡シ其上ニ

特製10喜多川紙店

テ確定ノモノト致度候
就テハ朝鮮各國居留地整理ニ關スル前
掲ノ趣旨ニ御同意ノ上ハ右ノ次第貴國
政府ニ御移牒相成度且成ルヘク速ニ貴
國政府ニ於テ前記訓令ヲ在京城貴國領
事官ニ發セララルル様閣下ノ御斡旋ヲ煩
ハシ度候將又貴國政府ニ於テ右訓令ヲ
發セラレ候トキハ其ノ旨當省ニ御通知
相成度候
朝鮮總督府ニ於テハ在京城貴國領事官

右訓令ノ到達ナルヤ直子ニ本件協議ニ関スル議案竝ニ参考書類ヲ提出可致且當該官ニ於テ本件協議ニ必要ナル一切ノ説明ヲ與フヘク候
右申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正元年八月二十八日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サトクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第十三

以書翰致啓上候陳者明治四十一年ノ頃帝國政府ニ於テ日英兩國間ニ司法共助ニ関スル條約ヲ締結セムコトヲ提議セルハ御諒悉ノ通ニ有之候處貴國政府ニ於テハ本條約ニ依リ共助ヲ為ス事項ヲ單ニ民事及商事事件ノ證據調ニ止ムルコト竝ニ本條約適用ノ地域ハ貴國政府ノ側ニ在リテハ聯合王國內ニ限ルコトヲ希望セラレ四十二年六月十一日ヲムボルド代理大使ヨリ石井外務次官ニ

對シ右希望ノ理由ヲ開示セル覺書ヲ送
 付セララルルト共ニ前記條約規定ノ範圍
 ヲ局限スルノ考案ニ關スル帝國政府ノ
 内意ヲ問合セラレタル儀モ有之候依テ
 本省ニ於テハ其ノ當時本件ニ付關係官
 廳ト協議ヲ盡シタルモ種々ノ疑義ヲ生
 シタル為帝國政府ノ意見終ニ確定ニ至
 ラス翻テ本條約締結ノ必要ヲ感シタル
 理由ヲ查スルニ畢竟明治四十年一月八
 日帝國外務大臣ヨリ貴國代理大使宛ノ

書翰中ニ詳説セル通本邦ニ於テ外國裁
 判所ノ囑託ニ因ル司法共助法(明治三十
 八年法律第六十三號)ハ特殊協約ノ存ス
 ル場合ニ限り之ヲ適用スルノ主義ヲ執
 リタルカ為ニ外ナラサルニ付寧ロ此ノ
 主義ヲ變更シ斯ノ如キ協約ナキ場合ト
 雖外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助ヲ施行
 スルコトヲ得ルノ途ヲ開クハ本件問題
 ヲ解決スルノ最良方法ナルヲ認メ右ノ
 趣旨ヲ以テ關係官廳間ニ合議ノ結果前

記法律改正案ヲ帝國議會ニ提出シ過般
其ノ協賛ヲ得タル次第ニ有之候追テ該
改正法律公布セラレ效力ヲ生ズルニ至
ラハ貴國裁判所ノ囑託ニ因ル法律上ノ
補助ハ貴國力同一又ハ類似ノ事項ニ付
相互ニ法律上ノ補助ヲ為シ得ヘキ旨ノ
保證ヲ與ヘラレ且手續ニ關スル其ノ他
ノ法定條件ヲ具備スル場合ニ於テ別ニ
協約ノ規定ヲ待タスシテ直ニ施行スル
コトヲ得ル筈ニ有之從テ貴我兩國間ノ

關係ニ於テハ事實上本件條約ハ最早締
結ノ必要ナキニ至リタルコトト存候尤
モ前顯帝國法制ノ改正ニ拘ラズ貴國政
府ニ於テ尚右條約ノ締結ヲ必要又ハ便
宜ト思考セラレル事情ニ有之候ハ其
ノ旨御回示相成度様致度候
右申進旁本大臣ハ閣下ニ向テ重テ敬意
ヲ表シ候敬具

明治四十五年三月二十八日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サシクロードマックスウエル、マクドナルド閣下

大不列顛特命全權大使
サシクロードマックスウエル、マクドナルド閣下
...

第十三

以書東致啓上候陳者去ル十月十日公布
勅令第三十一號ヲ以テ明年一月一日ヨ
リ帝國港内ニ於ケル外國汽艇ニ船舶職
員法準用方ノ件ニ関シ今月二十六日附
第百二十號書東ヲ以テ貴國前任大使閣
下ヨリ御申越ノ儀ニ関シテハ今月三十
一日附送第六十四號ヲ以テ一應及回答
置候次第有之候處今般主務官廳ヨリ同
大使御申出ノ要旨ハ此際現在乗組ノ船
長及機関長ニ限り海技免狀ヲ受有スル

コトヲ要セサルノ除外例ヲ設ケントス
 ルニ在ルモ右者船舶職員法準用ノ目的
 ニ適ハス且ツ将来衝突其ノ他ノ海難ノ
 生シタル場合ニ於テモ其ノ職員ニハ海
 員懲戒法ヲ準用スルコトヲ得ス同一ノ
 場所ニ於テ内外國人所有船舶ノ取扱
 振リヲ異ニスルノ状態依然トシテ繼續
 シ勅令制定ノ趣旨ハ大半貫徹セサルコ
 ト相成ヘク而シテ其ノ船舶職員法ヲ
 準用スヘキ外國人所有ノ船舶ハ同大使

御申出ノ通目下開港内ニ使用スルモノ
 ニ止リ其ノ職員ハ本邦人ニシテ數年來
 船ニ居ル者ナルヲ以テ船長ニ在リテハ
 一年機關長ニ在リテハ蒸汽機關ナラハ
 二年發動機ナラハ一年ノ乗組履歷ヲ要
 スル受験資格ニ充分ノ履歷ヲ有シ又其
 ノ試験ハ口頭ヲ以テ船舶又ハ機關ノ取
 扱方ヲ試問スルニ止リ候ニ付已ニ數年
 船舶機關ノ運轉ニ從事シタル者ニ在リ
 テハ試験ニ合格シ相當海技免狀ヲ得ル

コト困難、次第ニ無之且ツ其ノ乗組員
中已ニ海技免状ヲ受有スル者モ多数有
之候ニ付テハ未夕其ノ海技免状ヲ受有
セサル者、本件勅令施行ノ期日ヲテニ
試験ヲ受ケ海技免状ヲ受クヘキコトヲ
船舶所有者ニ於テ取計候様致度尚ホ其
ノ筋ニ在リテハ試験ノ際可及便宜ヲ與
フル様可取計趣回答致越候ニ付右様御
了承相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重
テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

特製10喜多川紙店

大正元年十一月十五日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛臨時代理大使

ホレスラムホルド貴下

大正元年十一月十五日
大不列顛臨時代理大使
外務大臣子爵内田康哉
大不列顛臨時代理大使
ホレスラムホルド貴下

其、考量ヲ求メ置候處同省ヨリ今回篤
ト事實調査ノ上左、旨回答有之候
神戸税關官吏ハ曩ニ右英國商社カ其ノ
輸入スル自轉車又ハ部分品ニ關シ虚偽
ノ仕入書ヲ使用スルノ嫌疑ヲ以テ關稅
法第八十四條ニ依リ臨檢搜索ヲ行フノ
必要ヲ認メ本年六月十五日前記店舖工
場及私宅都合八ヶ所ニ臨檢シ何レモ臨
檢ノ理由ヲ告ケ右社員又ハ其ノ代人立
會、上必要ト思料シタル場所ノ搜索ヲ

遂ケ必要ト思料シタル帳簿及書類ヲ差
押へ税關監視部ニ於テ該商社支配人等
ノ面前ニテ右差押物件ヲ精査シタルニ
犯則ノ證據ト認ムヘキモノヲ發見セサ
リシニ依リ同日午後四時本人等ニ其ノ
旨ヲ告ケ差押物件ハ夫々還付シタル次
第ニ有之候元來税關官吏カ臨檢搜索ヲ
行フニハ特ニ慎重ノ注意ヲ怠ラサルモ
之ヲ行フニ非サレハ犯則ノ事實ヲ確ム
ルニ由ナシト認ムルトキハ法律ノ規定

ニ依リ其ノ職權ヲ執行スルノ外無之斯
ノ如ク充分ノ注意ヲ加フルニ拘ラズ搜
索ノ結果豫想ニ反シテ遂ニ犯則ノ證據
ヲ發見セサルコトアルハ實際ニ於テ已
ムヲ得サル儀ニ有之候本件ノ場合ニ差
押物件中偶々該商社ノ業務ニ關係ナキ
信書アリタルハ遺憾トスル所ニ候ハ共
右ハ當事者カ調査進行ノ迅速ナラシ
トヲ希望シ進シテ一括ノ書類ヲ提供シ
タルニ依リ當該官吏ハ臨檢ノ現場ニ長

坐シテ一日之ヲ精査スルハ徒ラニ當事
者ノ不快ヲ大ナラシムル所以ナルヲ顧
慮シ之ヲ避ケムカ為一括書類ヲ其ノ儘
税關ニ持歸リタル上當事者ノ立會ヲ以
テ調査ヲ為シタルモノニ有之故ラニ無
關係ノ信書ヲ差押ヘタル次第ニハ無之
候
將又税關官吏カ臨檢搜索及差押執行ノ
際或場所ニ於テハ關税法第九十三條及
同法施行細則第六十六條ニ依リ調書ヲ

作成シ關係當事者ノ署名ヲ求ムルノ手
續ヲ為サバリシハ其ノ措置宜キヲ得サ
ル所アルモ右ハ當該官吏カ當事者ノ希
望ニ應シ前記手續ヲ省略シタルモノニ
シテ現ニ「グリ」商社ノ店舖及總支配人
「ジエ」シヤーレー氏ノ私宅ニ臨檢セル
ニ當リテハ又々規定ノ調書ヲ作成シ當
事者ト共ニ之ニ署名スルノ手續ヲ履行
致候
終リニ神戸税關カ右商社ニ犯則ノ行為

アリトノ事實ヲ認メサルノ趣意ハ同税
關長ヨリ別紙寫之通去ル六月二十二日
附ヲ以テ該商社ニ與ヘタル回答中ニ明
言スル所ニ有之候
以上主務省、回答ヲ閣下ニ轉報スルニ
當リ本大臣ハ今後斯ノ如キ事件ノ續出
セサラムコトヲ期待シ茲ニ之ヲ附言致
候
本大臣ハ此ノ機ニ際シ閣下ニ向テ重ホ
テ敬意ヲ表シ候敬具

ニ通シタル次第ニ有之候
右及回答候也

明治四十四年六月二十二日

關長名

グリヤール商會

支配人ヂェリシヤレー宛

本月十五日貴商會其出ノ書ヲ覽ス。關
ニ於ケルニ十日所再貴商會ノ書ヲ覽ス。關
ニ於ケルニ十日所再貴商會ノ書ヲ覽ス。關

第十五

以書翰致啓上候陳者近日帝國政府カ朝
鮮ニ於ケル或種貨物ノ輸移出税ヲ免除
セムトスル計畫ニ關シ貴國政府ノ訓
令ニ依リ本年一月廿九日付第十一号ヲ
以テ御申越ノ趣致領承候
貴翰ニ依レハ苟クモ朝鮮ニ於ケル現在
ノ輸移出税ヲ變更スルハ千九百十年八
月帝國政府ノ爲シタル宣言ニ違反スル
モノナリトノ御意見ニ候處右ニ關シ帝
國政府ハ併合ノ當初ヨリ左ノ如キ見解

ヲ有スルモノニ有之候
 一帝國政府カ韓國ヲ併合スルニ當リ特
 ニ關稅ニ關シテハ從來ノ條約ニ關係
 ナク十年間併合當時ノ關稅率ヲ維持
 スヘキコトヲ宣言セシ趣旨ハ畢竟朝
 鮮ニ於ケル諸外國ノ經濟的利害ヲ攪
 乱セサル為メニ外ナラス換言スレハ
 關稅ニ付テハ特ニ併合前ノ狀態ヲ具
 ノ儘継受持續スヘキ旨ヲ宣言セルモ
 有之候故ニ帝國政府ハ併合前ニ

於テ韓國政府カ關稅上行ヒ得タリシ
 コトハ併合後ニ於テモ帝國政府カ當
 然之ヲ行ヒ得ヘキモノト確信致居候
 抑モ協定稅率表ナルモノハ從來常ニ
 日本ニ於テモ朝鮮ニ於テモ其ノ賦課
 スルコトヲ得ヘキ稅率ノ最高限度ヲ
 規定セルモノト鮮親シ来リ實際ニ於
 テ輸出品ニ對スル協定稅率ノ低減又
 ハ廢止ハ一々關係諸外國ノ同意ヲ經
 スシテ之ヲ行ヒタルノ事例尠カラズ

現ニ帝國政府ニ於テハ明治九年以來
數次ニ互リ織物食塩石炭等數十品ニ
對スル協定輸出税ヲ廢止シタルコト
有之又舊韓國政府ニ於テモ隆熙二年
(明治四十一年)八月十三日法律第二十
一号ヲ以テ金銀銅ノ鑛石ハ其ノ鑛業
者ノ輸出ニ係ル場合ニ於テ之ヲ輸出
税ヲ免除スト定メタルコトモ有之候
之ヲ要スルニ税率据置ノ宣言ハ協定
税率表ニ示ス所ト同一ノ最高限度ヲ

變更セザルコトヲ保障スルニ止マリ
帝國政府ニ於テ舊韓國政府ノ享有セ
ル何等權利ヲ拋棄セルモノト解釈ス
ルコトヲ得ス從テ今朝鮮ニ於テ或種
貨物ニ對スル輸移出税ヲ免除スルモ
何等宣言ニ違反スルモノニアラスト
思考致候
二更ニ其ノ結果ニ就テ見ルモ輸移出税
廢止ノ爲メニ朝鮮ニ於テハ外國ノ經
濟的利益ノ害セラルル虞無之只日本

ニ於ケル外國品ノ販路ニ多少影響ヲ
及ホスコトナキヲ保シ難ク候一其曩
ニ貴國外務省「ラングレイ」氏ヨリ加藤
大使宛千九百十年八月三日附書翰ヲ
以テ関税ニ関シテハ帝ニ朝鮮ニ於テ
日本ニ對スルト外國ニ對スルトヲ區
別セサルノミナラス日本ニ於テモ亦
朝鮮ニ對スルト外國ニ對スルトヲ區
別セサル様提議アリタルニ對シ帝國
政府ハ元來韓國現在ノ関税ヲ据置カ

ムトスルハ全ク朝鮮ニ於ケル各國ノ
經濟的利害ヲ攪乱セサルコトヲ期セ
ルニ外ナラス然ルニ日本ニ於テ朝鮮
ノ貨物ニ對シ他國ノ貨物ニ對スルト
異ナル待遇ヲ與フルヤ否ヤノ如キハ
事全然日本ニ関スル問題ニ屬シ併合
ノ爲メ日本自体ノ関税制度ニ此種ノ
束縛ヲ受クヘキ理ナカルヘク帝國政
府ハ目下朝鮮トノ貿易ト外國トノ貿
易トノ間ニ何等差別的待遇ヲナスノ

意ナシト雖此兵ニ関スル帝國政府ノ
自由ハ十分ニ之ヲ留保セシコトヲ欲
スル旨加藤大使ヲシテ貴國政府ニ回
答セシメタル事實有之候右保留ノ精
神ニ徴スルトキハ今朝鮮ニ於ケル或
種貨物ノ輸移出税ノ免除ニ因リ偶々
日本ニ於ケル貴國商品ノ不利益ヲ招
致スルコトアリト假定スルモ之ヲ以
テ本件宣言ノ違反ナリトハ認め難ク
ト存候

特製 10 喜多川紙店

本大臣ハ貴國政府ニ於テ以上ノ説明ニ
顧ミ帝國政府ノ追テ執ラントスル本件
處置カ千九百十年八月ノ宣言ノ趣旨ト
何等抵觸スル所ナキヲ諒悉セラレシコ
トヲ切望致候此段貴答旁本大臣ハ茲ニ
重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十五年二月廿六日

外務大臣子爵内田康哉

大不列顛特命全權大使

サ、ク、ロ、ド、マ、ク、ス、ウ、ル、マ、ク、ド、ナ、ル、下、閣、下

